

会 議 名	第46期 一八会 第 8 回 役員会 議事録			2025年 12月 1日	
				書記	清水
議 題	各月例会案について				
日 時	2025 年 11 月 25 日(火) 19:00～22:30		場 所	菅原乳業(株) 会議室	
参 加 者	役 職	氏 名		役 職	氏 名
参 加 者	会長	菅原 州平		幹事	表 広明
	副会長	北浦 宏祐		幹事	本田 龍祐
	会計	堀 良介		幹事	中村 和丸
				幹事	岡本 康寛
				幹事	清水 風馬

No	表 題	内 容
1	開会挨拶	会長より残りわずかとなった活動期間における役員の結束を促す挨拶がありました。特に、12月例会に参加予定の有望な会員候補者・岸岡さんへの対応方針を共有し、組織の将来に繋がる重要な機会として会議全体の目的意識を統一しました。岸岡さんは入会を真剣に検討しており、役員一同で温かく迎え、積極的な交流を図るよう要請がありました。
2	11 月宿泊研修と 会費を考える会の 感想と反省	清水：当初の寒さへの不安を乗り越え、結果的に非常に良い研修であったとの感想。他の参加者からも好意的な声が聞かれた。 岡本さん：人生で二度とないかもしれない貴重な体験であり、多少の寒さには耐えられる精神力が身についたと感じている。 年会費の値上げ、もしくは受益者負担の導入について、早期に方向性を定めるべき。ベテラン層が会の将来を心配していることに感謝しつつ、若手こそが積極的に意見を発信していくべきであると提言。 表さん：前回の会費改定から相当の年数が経過していること、またその間の物価変動を考慮すると、会費の値上げはもはや避けられないとの見解が示されました。単に問題を先送りするのではなく、次期総会などを目途に、具体的な値上げへの道筋を明確に示していくべきであると強く提案されました。 中村さん：自身の入会動機が「学びたいから」であったことを挙げ、会の活動の主軸は、旅行のような親睦活動よりも「例会の質を上げること」、すなわち学習機会の充実にこそ置かれるべきであるという意見が表明されました。 堀さん：予算面においては、ほぼ計画通りに執行され、大きな問題なく完了したことが報告されました。その点においては、研修は成功裡に終わったと評価されました。財政問題を解決するためには、会費を増額するという「収入増」の側面と、既存予算の配分を工夫するという「支出管理」の側面、その両面からのアプローチが必要であるというバランスの取れた意見が述べられました。また、今後の会員数の増減が不確定である中で、性急に方針を決定することには慎重であるべきとの姿勢も示されました。 北浦さん：研修内容が参加者の体調に特別な配慮を要するものであった点について、運営側の反省点が指摘されました。中村氏からの指摘も踏まえ、誰もが気軽に参加できる性質のものではなかった可能性への配慮が不足していた点が挙げられました。事実として、研修後に体調を崩した参加者がいたことも報告され、今後の企画における重要な教訓とされました。 会費を一律で値上げするだけでなく、研修やイベントといった具体的な活動内容に応じて、参加者が費用の一部を負担する「受益者負担」の考え方を合わせて検討していく必要性が提起されました。これにより、全会員の負担を抑えつつ、活動の選択肢と質を維持・向上させることが可能になると期待されます。 会長：従来の企業視察とは一線を画し、「普段できないことを体験し学ぶ」という趣旨

No	表 題	内 容
		<p>で滝行を企画。過酷な環境への適応プロセスを通じ、人間の適応能力の高さや、極限状況下で思考がシンプルになり「感謝」などの本質的な感情が湧き上がる体験は、メンタルリセットの観点からも非常に有意義であったと総括。</p> <p>年会費の値上げ、受益者負担の導入、支出の見直しという複数の選択肢について、「全て必要であれば実施すべき」との見解を提示。ただし、その順番が重要であり、まずは過去の慣習に倣っただけの支出を見直す「概念の転換」が最優先であると強調。これを実行せずに会費を値上げしても、効果的な資金活用には繋がらないと指摘。この「概念の転換」を今期の成果として次期三役へ引き継ぎたいとの意向を示した。</p>
3	12月例会について	<p>パート 1: なぜ経営者は AI を活用すべきか</p> <p>AI 活用の重要性や、経営者が率先して取り組むべき理由を解説。 →「AI は重要」という総論だけでは弱い。「10 年後になくなる仕事」のリストを提示するなど、より具体的な例を挙げて「自分たちの仕事が代替されるかもしれない」という危機感を強く訴えかけるべき。</p> <p>パート 2: AI 利用ガイドライン</p> <p>日本ディープラーニング協会の雛形を基に、企業が AI を安全に利用するためのガイドライン策定の重要性を説明。 →ガイドラインの重要性は理解できるが、詳細な説明に 15 分は長すぎる。多くの会員がまだ AI 活用の初期段階にあるため、ここは要点を 5 分程度で簡潔に伝え、注意喚起に留めるべき。</p> <p>実践デモンストレーション</p> <p>Chat GPT や Notebook LM などのツールを実際に操作し、活用法を紹介。 →ツールの機能紹介だけでは、日常業務との繋がりが見えにくい。「社内会議の議事録を AI で要約し、ToDo リストを作成する」といった具体的な業務シーンを寸劇形式で実演することで、参加者が「明日から自分もこう使ってみよう」とイメージできるような構成にすべき。</p>
4	1月例会について	<p>1 月 新春講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ テーマ: 企業が注意すべき犯罪(コンプライアンス、問題発生時の対応法など) ◦ 講師: 飛松氏(元警察官、探偵) ◦ 開催日時: 1 月 13 日(土) 18:00 開始 ◦ 進捗: 12 月 2 日に講師と打ち合わせを行う予定。費用も発生しない見込み。
5	2月例会について	<ul style="list-style-type: none"> ◦ テーマ: SECI モデル(暗黙知と形式知)を活用した「会社の強みを活かす仕組み作り」 ◦ 課題: ネットでの情報収集に行き詰まり、内容が散漫になっている。 ◦ 役員からの助言: <ol style="list-style-type: none"> 1. 特定の書籍を 1 冊選び、それを基軸に内容を構成してはどうか。 2. AI との「壁打ち」(対話形式のブレインストーミング)を活用し、思考を整理するだけでなく、人間の先入観やバイアスにとらわれない視点を得ることを推奨。
6	3月例会について	<ul style="list-style-type: none"> ◦ テーマ: 情報発信(サブタイトル:知られてなければ存在しないのと同じ) ◦ 課題: 「デジタルツールを使った情報発信」というテーマは広範すぎて、企画の具体性に欠ける。グループワークの設計も難航している。 ◦ 役員からの助言: <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマをより具体的に絞り込む必要がある (例:ブランディング、特定 SNS の活用法など)。

No	表 題	内 容
		2.専門性が高いテーマのため、無理に自身で講義するのではなく、外部から適切な講師を招聘することも有効な選択肢として検討すべき。 (その場合、費用問題は残る)
7	その他	<ul style="list-style-type: none"> 当初 1 月 27 日に予定されていた役員会は、別行事と重複するため、1 月 19 日(金)18:30 開始に変更となりました。 役員の慰労を目的とした旅行として「韓国 2 泊 3 日」が提案され、役員間で合意が得られました。今後、具体的な計画を進めることになります。 <p>分科会 1月27日(火)瀧元シニア</p>
8	次回役員会日程	<p>・第9回役員会:12月23日(火)18:30～</p> <p>場所:菅原乳業社(懇親会は必ず実施)</p> <p>議事録予定者: 表</p>